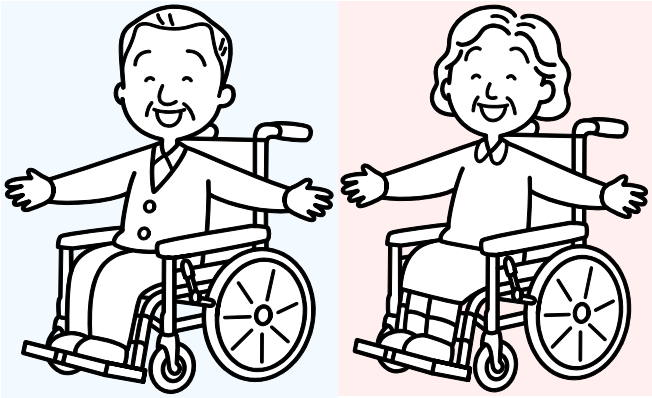
「　さ　さ　え　」

2005，4 月発行　情報誌　第 11 号
発行　ＮＰＯ福祉用具ネット事務局
住所／福岡県田川市伊田４３９５（福岡県立大学生涯福祉研究センター内）
ＴＥＬ／ＦＡＸ　０９４７－４２－２２８６
Ｅ－mail　npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp
HP　http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm
情報誌「ささえ」は年４回（１月・４月・７月・１０月）発行しています。

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがＮＰＯ福祉用具ネットを元気にします



小さな芽を
すこやかに育てたい

特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

NPO 福祉用具ネットのロゴマークは明石尚典さんのデザインです。

いま、風はどこに向かって吹いているのだろうか

理事長　豊田謙二　（福岡県立大学教授）

1998 年に福岡県立大学福祉用具研究会がスタートしました。その年から、8 年が過ぎ去ろうとしています。この研究会は自立支援をテーマとして掲げ、福祉用具の活用と住宅改修の事例を研究することを目標としてきました。月に１回の研究会にはいつも 30 名ほどの方が参加されています。その間、2002 年の 11 月には、研究会の機能は残したままで、事業部門を独立させて「NPO 福祉用具ネット」が設立されました。障がいを持っていても、福祉用具や住宅改修によってもっといい暮らしができるのに、その情報や支援が届かない。もっと行動を、これが NPO 設置の目的であります。

自立支援とは、具体的には「寝たきり」や「寝かせきり」を予防することであります。 本 NPO 法人は、福岡県産炭地域振興基金から今年度までの３年間に亘る研究助成を得て、自立支援型「床ずれ予防マット」(=ピーウェーブ)を開発しました。昨年の秋に開催された東京と小倉での「国際福祉機器展」で幸いにも高い評価を得ました。この「ピーウェーブ」の特徴は、文字通り自立支援型であります。まず、「床ずれ予防」、「寝ごこちの良さ」、車いすへの「容易な移乗」であります。つまり、「寝かせきり」にしないで起こす、という考え方に沿って設計されています。

自立的生活を実現するためには、適切な福祉用具と住居というハード面とともに、日々の生活設計が重要であります。たとえば、一日の時間単位でのくらしのしかた、さらに一週間、そして一年間、さらに生涯にわたる計画が作られねばなりません。また、　住居のなかで寝室、居間、トイレ、浴室というように個々の空間が自立支援生活に沿うように整備されねばなりません。時間軸と空間軸による組み合わせであります。

風はどこに向かって吹いているのでしょうか。自立支援の言葉はありますが、具体的な方法が見えてきません。最も重要なことは、一人ひとりが自分の生きていく生活設計を考えることであると思います。私ども NPO 法人は今後とも自立支援の活動を続けていきたいと思います。改めて、ご支援とご助力をお願いする次第です。

福祉用具を試すことができる展示場がオープン!

NPO 福祉用具ネット開発商品も展示しています。(太陽セランドショールーム内)

福祉用具は試して選ぶことが重要です。

福岡市には「ふくふくプラザ」、北九州市には「テクノエイドセンター=4 月より名称が福祉用具プラザ北九州に変更」、春日市には「クローバープラザ」に福祉用具常設展示場があります。しかし、筑豊地域には福祉用具を試す場所がありません。要介護者の身体状況は一人ひとり異なり、福祉用具を使用する住環境や介護する方の条件もさまざまです。適切な福祉用具を選び、正しい使い方の指導を受けさらに使いこなせるように練習をすることが大切です。この度、田川市の太陽セランド(株)がショールーム内を大幅に改装し福祉用具のフィッテングができるようにしてくれました。**トイレや浴室もレイアウトされており、浴室にはリフトも設置されています。**住環境をイメージした福祉用具の選定や使い方の指導に役立つことと思います。ケアマネージャーの皆さん大いに利用させてもらいましょう。NPO 福祉用具ネットが開発した P・Wave「ピーウェーブ」も体験できます。(事務局 大山　美智江)

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」（その 2）

九州日立マクセル（株）新分野開発ＰＴ長　坂田　栄二

開発の心を動かした「無理心中」

平成 10 年　初夏。

新聞をめくって目に飛び込んできたのは、「介護疲れでお母さんと無理心中」の見出し。

お母さんに認知症の症状が現れ、昼夜かまわず徘徊して回るため、会社を辞め、結婚もせずただひたすらに介護に努めた男性、53 歳。最近では認知症が進み、夜中の徘徊がひどくなったため母親と自分の手を紐で縛って寝る毎日。もし母親が外に出るために紐を緩めようとすると目が覚めるように、うとうとしながらの介護。しかもそれも長く続かず、昼間の介護に疲れてぐっすり眠り込むと、ロープが解かれたことも気づかない有様。夜中に探し回って、ようやく明け方にうとうとする日々が続いた。10 年間の介護疲れで精根尽きた彼は将来を悲観し、母親を車に乗せ岸壁から海に飛び込み、母親は水死したが、本人は救助されたのです。

なんと悲惨な話しかと強い衝撃。「よし、これを開発テーマにしよう。」

ようやくできた徘徊位置検出器

最初は、普通の家電品と同様な開発体制で臨み、最新技術を駆使し、試作品を作りそれなりの投資をして一応の形はできました。これが「徘徊老人監視システム」でした。

ＰＨＳ（携帯電話）の現在位置検出技術を応用したものです。ＰＨＳのアンテナは２００m～４００mごとに配置されており、ＰＨＳに近い順にアンテナの検出レベルが出力されますので、三角測量方式で計算すれば１０m程度の誤差で居場所がわかります。当時の最先端通信技術でした。今では GPS を使うこともできますが、GPS では電波の届かない建物の中や車の中では使えませんので、この PHS 方式のほうが確実なのです。

本体サイズは、身に着けていても邪魔にならないミニサイズ（昔のマッチ箱程度）。一旦電源スイッチを入れると 1 週間くらいは連続発信できる節電能力。しかも万一倒れた場合を想定した転倒検出装置、歩いているか止まっているかを検出する振動検出装置など、いろんな機能がついた優れもの（？）でした。

さらにこのシステムを運用するにはＰＨＳ電話会社のアンテナを使いますので、電話会社と利用料金や維持費用の分担などの取り決めも進めました。

「もうこれで完璧だ！」

しかし事はそんなに簡単にいきませんでした。

平成 10 年 8 月 27 日、開発着手から３ヵ月のスピード開発。意気込んで県立大学の福祉用具研究会（当時はまだＮＰＯはありませんでした）に持ち込んで、会員の皆さんへのお披露目のつもりで説明を終えた途端に事件は起きたのです。

一通りの説明を終えると、あちこちからブーイングにも似たような質問が飛び出てきたのです。何事ぞと思うばかりのブーイングです。最初は私共もそのような質問を冷静に聞いておりましたが、そのうちに「あなた方に設計の苦労がわかるのか！」と怒りの気持ちにさえなり「もう、聞く耳持たぬわ」とさえ思い始めました。

しばらく怒りの気持ちを押し殺し耳を傾けておりますと、質問のどれひとつとして反論したり回答ができないことに気づきました。

“ 確かに会員の皆さんの言うとおりだ・・・。”

だんだん恥ずかしさと今後どうしたらよいのかという不安にかられ、その日は、ほうほうの体で逃げ帰ったものでした。

福祉機器開発の失敗原因はどこにあったか。

そこで反省。

受けた質問は全部で 11 項目。たとえば「ＰＨＳは利用者の服に隠しポケットを縫いつけその中に封じ込め紛失を防止します。」という私の説明に対して、

「夏の暑いとき、服を脱いで捨ててしまったら？」

「利用者は毎日同じ服を着ないのでは？」

という質問が帰ってきました。確かに質問のとおりです。なぜあれほど質問が集中したか？答えは簡単でした。「設計は机上」の話であったのに対して「福祉は現場」にあったからです。私たち家電品設計者は、机上で「この商品はこうあるべきだ」と自分が一人の使用者になりきって設計を進めることができます。

しかし障害者のための機器は障害の程度により、異なった構造や材質、サイズになり、その人のための専用の設計がなされなければならないからです。聞きかじって判ったつもりで開発すると使い物にならないものになってしまいがちです。

確かに一般の家電品には使いにくい部分がたくさんあります。それは材料や生産コスト、デザインを優先させた結果でしょう。そのような使いにくさを設計者や健常者は意識せずに使いこなすことができます。「使いにくい」点を利用者の「五体満足」の能力でカバーして黙って使ってくれます。しかし福祉機器の現場では、利用者が使い難い部分があれば、その機器はまったく使い物にならないのです。

介護疲れの心中とう裁く

戸畑の母親殺人事件

きょう初公判

生き残った息子の「罪」は

減軽求め2500人署名

事件を伝える当時の新聞（西日本新聞）

研究会の会員の皆さんから指摘を受けた１週間後、冒頭で紹介した“母親と心中しようとして自分だけが助かった男性”の殺人事件初公判が新聞で報道されました。罪の「軽減求め２，５００人署名」の見出し。介護の現実と罪の重さに多くの人々が立ち上がったのです。私たちも何とか商品化しようと全力を尽くしたのですが、超えれぬハードルが余りにも多く、多額の開発資金を回収できぬまま、商品化を断念しました。

その１年後の秋、「徘徊老人監視システム」は、私たちと同様の問題や使いにくさを抱えたままほかのメーカーから発表されました。当初は悔しい思いをしましたが、昨年の販売実績は全国で 100 台を少し超える程度でした。しかもＰＨＳ電話はドコモも撤退するとの新聞発表もあり今後ますます先細りになることでしょう。私たちは途中断念をしてしまい、当初の新聞記事の目的は達していないことを心苦しく思っていますが、たくさんの数を生産することによる「企業の存続」 と必要なヒトに必要なものを提供する「社会への奉仕 」とのバランスをどうとればよいのか、いつも悩んでおります。

この開発中断事件以降、「確実な開発テーマ」 を決定するためにも、もっと福祉を勉強し現場を知ろうという社内気運が高まってきました。

（次回は、「ＮＰＯの誕生」を掲載します。

「訪問リハビリテーションとは何をやってるのか」

あおぞらの里　行橋訪問看護ステーション　井内　陽三（理学療法士)

訪問リハビリテーションと聞いて皆さんは、どのようなイメージをもたれていますか。「家に行って、手足を動かす」「病院での機能訓練の続きをする」などではないでしょうか。これは、確かに行っている一面ではあります。しかし、実際にはイメージと多少違うことも行っています。私的な意見も入りますが、紹介したいと思います。

現在、訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）は、病院から直接自宅に伺う場合と、訪問看護ステーションから伺う場合の２種類があります。私の場合は、後者の訪問看護ステーションに所属しています。訪問が始まるきっかけは様々で、ケアマネージャーの紹介、医師の指示、退院先の病院からの紹介などです。依頼を受けると、主治医から指示書をもらい、そこから訪問開始です。簡単に言えば、主治医が必要と認めれば訪問できるのです。

次にリハビリの進め方です。実際の訪問では、まず、本人、家族の要望を聞きます。しかし、病院でリハビリを受けたことがある人は、訪問リハビリは機能訓練の継続をするものだとの思いが強いようです。（他の専門職の方もそのようなイメージを持っている人が多いようです。）そのため、この時点で、機能訓練と平行して、ＡＤＬ（日常生活動作)、ＡＰＤＬ（日常生活関連動作）を行っていくことを説明します。その後、依頼があったケアマネージャーや主治医の依頼内容とすり合わせます。その上で、リハビリの開始です。

では、具体的に「病院内リハビリ」と比較して「訪問リハビリ」では、何をしているのか。目的では、大きく３つに分けられます。

①「生活リズムの確立」

仮に何らかの障がいを持って自宅で生活をする場合、色々な面で制限を受けます。その原因は、様々で「手すりがない」「介護者がいない」などの環境要因、「動きたくない」「動く力がない」などの個人的な要因など複合的なものです。それを解決することで、一日、一週間、一ヶ月、一年の単位で、その人の生活を組み立てていきます。

②「運動の促し」

これは、能力向上のための運動、能力維持のための運動と言う側面を含みます。自宅での運動は、なかなか継続しにくく、具体的な目標を提示して継続して行えるようにします。

③「生きがいを持てる活動」

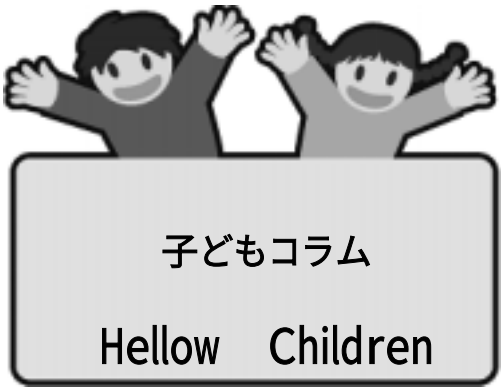
それは、趣味活動であったり、近所づきあいなどの社会参加であったり、家庭内での役割であったり、生きがいを感じる活動全般です。

以上のようなことを考え、それにあわせて必要な筋力訓練、歩行訓練、動作訓練などを行っていきます。

私自身は、このようなことを考えて、訪問リハビリを行っています。「訪問リハビリは何やってるの」という皆さんの疑問解決の役に立ったでしょうか。これを読んでいる皆さんが、今後、ＰＴ（理学療法士）やＯＴ（作業療法士）とチームを組む際の参考になればと思います。

スタートからの手助けとゴールからの手助け

中藤広美　福岡県立大学生涯福祉研究センター助手

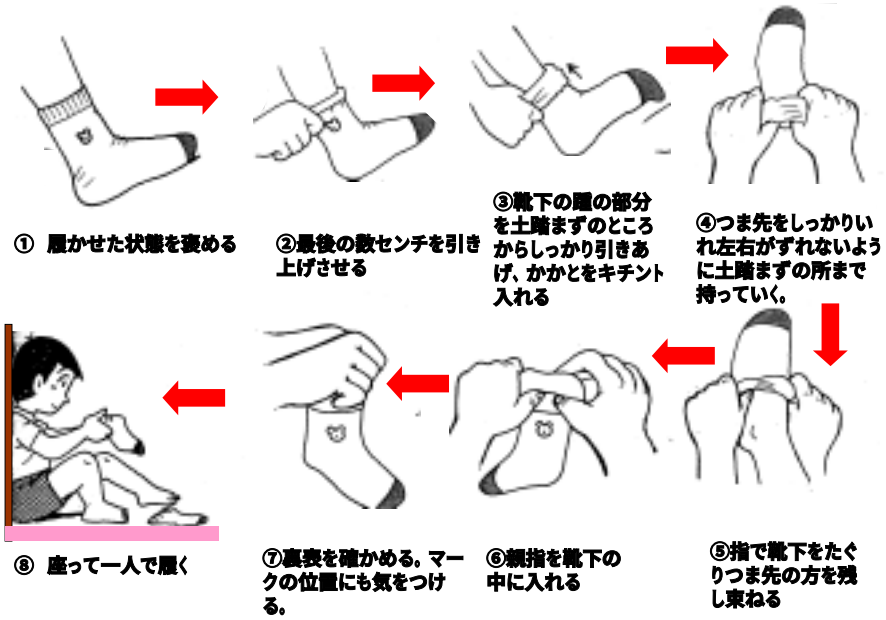


子どもが何かができるようになるとき、そのことを躾ようとする大人たちは、具体的にどのような手助けをしたらよいか、生活の中で戸惑うことはありませんか？今回は、具体的に手助けをするときにちょっとしたコツといいますか、方法を見出すときのポイントをお話したいと思います。そのキーワードが「スタート」と「ゴール」という言葉です。

躾けたい行動の始めの一歩をスタートと考えその事からはじめる事を「順行型の躾」、できあがった状態から始める事を「背向型の躾」といいます。私たち大人はすべての躾を「順行型」で進めようと考える事が多くなりがちです。躾をするときには子どもを「褒める」と子どもは喜んで頑張ってやろうという気持ちを起こしますよね。褒める機会を増やす為の方法の１つが、この「順行型と背向型の躾」の選択なのです。

【例を挙げて考えてみましょう。】

「靴下を履く」という躾をしようとしたとき、褒める機会を増やすにはどうしたら良いでしょうか？「順行型の躾」でした場合、子どもが履こうとすると「ほらガンバレ」「それ違う」「持ち方が違うでしょ！」等々の言葉がけが増えてしまい、子どもは注意の言葉をいっぱい聞かされ、やる気が失せることもあるでしょう。そこで「背向型の躾」をすると子どもは既に履けた状態から練習を始めるから褒められる機会が増えます（下図参照）。　しかし、背向型の躾が合わない場合もあります。私は保育園や学校で「背向型」をされて辛かったので頷けるのですが、「嫌いなものを食べる」等はまさしくそれです。例えば嫌いな牛乳を飲む練習をするとき、いきなり 1 本全て飲むことができますか？辛いですよね。このような時にはスプーン１さじから練習を始め褒める機会を増やします。どの方法から始めるとこの子を褒める機会が増えるのか・・・　それを考えながら「順行」「背向」を選んでみてください。



気になる福祉用具情報

事務局　大山　美智江

①ポータブルトイレの紹介

安心できるトイレでの排泄が一番ですが、どうしてもトイレに行けない方のポータブルトイレの選び方として、便秘しやすい高齢者の排泄支援の一手段としてのお奨め商品です。

■家具調ポータブルトイレＨＳスライドくん　メーカ：アロン化成株式会社 (ホームページより引用)

スムーズに排泄が行える姿勢とは

排泄のしやすさ・しにくさは、排泄時の姿勢が大きく影響します。スムーズに排泄を行うには、直腸と肛門との角度が排便しやすい角度になる前傾姿勢が一番望ましい姿勢です。

この前傾姿勢をとりやすくするために、前方で身体をしっかりサポートすることが重要なのです。

前傾姿勢

直腸と肛門の角度がおよそ 120 度に開くので便が出やすくなり、さらにお腹に力をいれていきみやすくなる。

定価　56700 円より　　介護保険福祉用具購入対象品目

②体位変換用クッションの紹介

高機能の床ずれ防止マットを使用していても、体位の変換は大切な介護です。細やかなやさしさは床ずれを予防し心地良い姿勢を保つことができます。実際に試してみましたが姿勢をしっかりと保持してくれるのでとても安楽でした。ショールーム等でお試し下さい。便利な一品です。

■スネーククッション

これ1本で安楽･良肢位保持が実現できます！

特長／長さ 2m のロール状クッション。1 本であらゆるベット上での安楽、良肢位保持を実現。上図のような 30 度側臥位やギャッチアップ時のズレ予防に有効です。またクッションは洗濯、乾燥機可能で衛生的にご使用いただけます。　　メーカ：ラックヘルスケア(株) ホームページより引用

購入価格　　22,050 円　　介護保険福祉用具貸与品目です。

レンタル料金 1500 円／1 ヶ月　　本人負担額 150 円　お近くのレンタル事業所にご相談下さい。

会員の皆様へのご連絡です。

平成 17 年度通常総会のご案内

下記の日程で通常総会を開催いたします。是非ご出席下さいますようお願いいたします。

尚、ご都合で出席できない方は必ず同封の委任状のご提出をお願いいたします。

開催日　平成 17 年 5 月 12 日　木曜日　18 時 30 分から

場所　　福岡県立大学生涯学習資料室　図書館 1 階　(予定)

出欠のご返事は 4 月 30 日までにご提出下さいますようにお願いいたします。

事務局より

会員の更新手続きのご案内と新年度の新規会員を募集しています！

事業年度は毎年４月から翌年３月までです。

＊会員の皆様は、引き続き次年度の更新手続きをして下さいますようお願いいたします。

個人年会費　　４，０００円

団体年会費　３０，０００円

賛助会員は１口　３，０００円

＊ **新年度の始まりです。NPO 福祉用具ネットの新会員を募集しています。**

会員になると会員価格で研修会を受講できるなどのメリットがあります。

個人入会金　１，０００円　年会費　４，０００　合計　５，０００円

団体入会金　２，０００円　年会費　３０，０００　合計３２，０００円

賛助会員　１口　３，０００円

＊福祉用具･住宅改修の電話相談は無料です。是非ご利用ください。

電話　０９４７－４２－２２８６　（月曜日～金曜日　午後１時から４時まで）

入会に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。また、ＮＰＯ福祉用具ネットの活動状況は、ホームページで詳しくご覧いただけます。ホームページは随時更新していますので是非一度覗いて見てください。アドレスは表紙をご参照ください。

広々とした敷地内でゆったりと過ごせます。

浴室やトイレも使いやすさを追求した設計になっています。

畳の談話室は立ち上がりやすく設計されています。

ＮＰＯ福祉用具ネットは「**アットホームこころ**」の開設に伴ない、コンサルタントを行っています。

入居者募集中　　お問い合わせは　**０９４７－４４－６３３０　担当　木村**